

出会いにお金をかけたたくないOLの

スピード婚で玉の輿を狙う方法

## プロローグ

「将来、お金持ちと絶対に結婚にする！」

夏は馬糞の匂いで目が覚め、冬は最低気温がマイナス三十度にもなるド田舎出身の私の婚活は十八歳からスタートする。

母親が毒親、引きこもりのせいで通信制高校卒、幼少期の頃は全て兄からのお下がりを着て男みたいな外見だったため、異性からマジでモテた経験がゼロ。

そんな状況にも関わらず、9年間もの間ただ一途に玉の輿狙いの婚活をやり続けられたのはきっと「母親を女の幸せで見返したい・・・」そんな思いが根底にあったからだ。

## 目次

1. プロローグ
2. 「女の幸せで見返したい」
3. 陥りがちな落とし穴「とにかく外見を磨けば結婚できるっしょ。」
4. お金持ちの「都合の良い女の特徴」
5. 年収1億円越えの男性から聞いた「高収入男性からモテるためにやるべきこと。」
6. 婚活歴6年目で気が付いた「婚活と就活はほぼ同じ」という事実。
7. 9年間の婚活からわかった高収入男性と結婚するために必要な事  
(1) 「共通、共感、同じ」が如何に大切か。

- (2) 誰でもできる好印象の為には必須の「聞き上手になる方法」
  - (3) 「交際相手と結婚相手の決定的な違い」
  - (4) 一番重要な「マインド」について
  - (5) 出会いにお金をかけるな、9割の人が陥るハイクラス結婚相談所の闇
8. 私が運営する戦略的婚活ゼミの受講生様が驚く結果を次々に出した件。
9. エピローグ
-



## 「女の幸せで見返したい」

私は、会社員の父と専業主婦の母のもとに生まれた。3歳年上に兄がいて2歳年下に弟がいる5人家族。そんな私たちの住まいは、夏は近隣の家畜の糞の匂いで目が覚め、冬はつらら(氷柱)を菓子代わりに舐めながら雪遊びができる北海道の田舎だ。

父はとても多忙な人で週1日休みのサラリーマンをしていた。そのためほとんど家にいることがなく、家のことは全て専業主婦の母に任せていた。そんな母の趣味は節約と貯金。母のこの趣味によって私は苦い幼少期を過ごすことになる。

「え……。また兄からのお下がりの服？」

幼いころの私の服は全て兄からのお下がりであった。男物の服装に合わせ髪も肩より上のベリーショートヘア。正直ぱっと見たら男にも見えなくもないかも？と、そんな外見。兄と弟に挟まれて過ごしていた私にとってそれはごく当たり前のことだった。

そんな私がこの違和感が付いたのは小学校に入ってからだ。

まわりの女子達はフリフリのレースが付いた可愛いらしい服を着ている。しかも綺麗なロングヘア。幼稚園にいた頃はみんな制服で統一されていたため普段どんな服を着ているか、なんて一切気にならなかったし、そもそも私服を見る機会なんてほとんどなかったため気にしていなかった。

しかし、今回は妙にとっても気になる……。

「もしかして女の子って本当は可愛い恰好しなきゃいけないのかな？」

「私って、みんなと全然違う？」

一度そう思ってしまうとすごく、とても気になってくる。

「私、変じゃないかな・・・。大丈夫かな？」

急に居ても経ってもいられなくなった私は、トイレへと向かって全力疾走した。

そして鏡を見つけ食い入るように自分のことを凝視する。

「・・・」



その目に映っていたのは、母親にカットされた切りっぱなしの外ハネショートヘアのおとこ女のような恰好をした自分がいた。

「・・・私って絶対におかしい。私もみんなと同じ格好をしないと変だよ。」

その時素直にそう思った。

帰宅後。勇気を振り絞り母親におねだりしてみることにした。

普段から贅沢を許さない、無駄なものは一切買わない主義の母親に物を強請るなんて行為は、正直なところアリと会話をするよりも難しい話だ。

昔から母は私が何かを欲しがると少し不機嫌になる。そのため私は母に何かお願いするときは、いつも本当に緊張する。

私は手に汗を握り勇気を振り絞って聞いてみた。

「お母さん、あのね、私、みんなが着ているレースのついた可愛い服が欲しいんだけど……ダメかな？」

「……」

「何贅沢言ってるの？ お兄ちゃんの服がいっぱいあるじゃん。我儘言わないでよ。」

……。この母親。実は長男にはすごく優しく新しい服や靴、ゲームや本などを買い与えているが、なぜか私には厳しい。しかし、弟には兄と同じくらい甘い。そんな母親だったんです。

つまり、家にお金が無くて私の服が買えないわけではない、よね？兄が着れなくなった大量の服が余っているから私が新しい服を買うのは勿体ない、無駄なことだよ？　じゃあ、自分のお金で好きなものを買うならそれは問題ないってことだよ？

どうしても諦められない私は最後の手を使うことにしました。

「お母さん、あの、あのさ！　自分のさ、お年玉からいいから、好きな服、買ってもいいかな？」

何度も何度も何度もダメと母に言われているのにも関わらずこの話題を持ち出す私に対して正直、母はうんざりしているだろう。だが、私は最後の希望をかけてどうしても言いたかったのだ。

そんな私に対して母は、ため息をつけてからこう言った。

「お年玉は使えないから。諦めて。」

「・・・。」

そう。実は私の家族は、母の方針でお年玉は毎年必ず**全額貯金**という謎なルールがあり、イレギュラーさ  
え認めない、1円たりとも使うことができなかったのです。

自分のお金なのに。私がおじいちゃん、おばあちゃん、親戚のおばちゃんたちから「好きな物買ってね」  
と渡されたお金なのに・・・。好きな物買えないどころか何にも買えない。こんな理不尽なことある？

私は話の通じない母ではなく父にお願いをすることにした。しかし、母とすでに仲が良くない父は全然、

いや1ミリも頼りにはならなかった。

「お年玉使いたって？ とおさんだって好きに使わせてあげたいけどあの人、頑固だから無理じゃないかな？ もう一回聞いてみたら？」

この一言で私は人に頼っても無駄。自分で解決しなきゃいけないことを学んだ。

小学校中学年。ついに恐れていたことが起きた。朝、いつも通りに学校へ登園する。いつも通り自分のクラスの扉を開け、いつも通りクラスメイトに挨拶をする。ここまでは今までと何も変わらない日常。

しかし今日は違った。クラスの男子数名がニヤニヤしながら私に近づいてくる。え、なになに？私？なんだろう……。そう思っていると男子の一人が口を開いた。

「お前なんで、女なのに男の格好してるんだよ(笑)」

「お前ってさ、おとこ女じゃん！」

その言葉に賛同し他の男子も

「お・と・こ、お・ん・な〜！ ガハハハッ」

それを聞いた私は突然足ががくがくと震えた。それと同時に体が思うように動かなくなりその場から動けなくなった。恥ずかしくて、恥ずかしくて、死にたくなった。

回らない頭をフル回転させとにかく何かを言わなきゃ、直感でそう思った。

えーっと、えっとし、どうする自分！　なんか、なんか言わないと！

そんな時、咄嗟に出てきた言葉は

「私、女子っぽい服装があまり好きじゃないんだよね。」

「男兄弟に挟まれていたらこんなもんだよ！」

そう。私はこの日から自ら好んで男っぽい格好をしている。という本心とは全く違う謎な設定を演じることになった。

人間ってとても不思議な生き物で。あれだけ嫌だった男っぽい格好に対して気付いたら違和感がなくなり、自分なりに馴染んできていた。自ら好んで兄の服を選んだり、「これいいじゃん」と思うことまでできた。

だが、本当は可愛い格好がしたい。私だって男子に告白されてみたい。

ここまできたにも関わらずまだ、諦めずにそんなことを思っていたのには理由があつて。

それは定期的にかっこいい新しい服を買ってもらえている世の中で一番苦手な長男が、私の目の前でそこそこモテていたからです。

クラスメイトの女子から時々言われる「Ayaのお兄ちゃんがかっこいいよね！」という不快な褒め言葉。兄のクラスメイトの女子から受け取る「これ、お兄ちゃんに渡しといてほしいの！」のプレゼントや



手紙。さらに私にとって残酷だったのは、兄ほどではないが弟にも同じ現状が起きているということ。

なんで私だけがこんな扱いなの・・・。

クラスメイトの男子だけではなく、兄弟からも間接的に卑屈な思いをさせられる。なんで私だけ・・・。  
世界中どこ探してもこんなに不幸な子はいないじゃないか、と思いたくなるくらい気分が落ち込む。

今日もいつも通り嫌々、兄への手紙を兄のクラスメイトから受け取ったあと、トボトボ歩いていた私は衝撃的な言葉を耳にした。

「○○○くんはさ、すごくカッコいいのに妹やばいよねー」

「それわかるー。どっちかっていうと妹はブス寄りだもんねー(笑)」

「あの格好、女捨ててるでしょ！」

兄のクライメイトの女子達だった。私は何も悪い事をしていないにも関わらず、そこにいるのがバレないように咄嗟に隠れた。急に胸が痛くなりその場にしゃがみ込む。頭の中がネガティブなワードで埋め尽くされる。

「・・・もしかしてみんながみんな私のことをそう思っている？」

よくよく考えてみれば、バレンタインデーに好きな男の子に本命チョコをあげると「え？これって友チョコ

「コだよな？」と私が言葉を発する前に決めつけられた事があった。

兄の友達が自宅に遊びに来ている時、部屋の前を通ると「お前の妹ってさ、可愛くないよな(笑)」と私の話をしていたのを聞いたことがあった。

・・・私ってもしかしてブス？

ふとそんなことを思った。だけどそんな簡単にそのことを認める事なんて弱い私にはできなくて。でも、もしかして・・・とその言葉だけが頭の中をよぎる。どんどん、どんどん自分に自信がなくなっていく。

それと同時に「なんで兄ばかり・・・」と兄への嫉妬と母への不信感、さらに欲しいものが買えないこと

からお金への執着が生まれた。

中学2年生。私のクラスに絵にかくような不良が転校してきた。

そんな彼女の両腕には1列の根性焼き、複数のリストカットの跡がある。上を見ると、明らかに黒染めスプレーをした金髪が見え隠れしているイカツイ髪型が見える。この学校では誰一人として履いていない短かすぎるスカートにルーズソックス。

気だるそうに教壇に立ち、酒焼けしたかのような声で自己紹介をしていた。

その転校生を私がクラスで見かけるのは週に2、3回。毎日は学校に来ないスタイルらしい。

そんな自由な転校生が私にとってはなんだかとてもキラキラして見えた。

「彼女と仲良くなりたい・・・」

そう思った。

だがこの選択肢が、今後の私の学力に多大なる影響を与えることになる。

転校生と仲良くなった私は、その転校生に対して金魚の糞のようにくっついて行動をするようになった。親に内緒で勝手に学校を休むのは当たり前。彼女の家に行き煙草を吸う彼女の真似をし煙草を吹かしてみたり。友達の証として2つ左腕に根性焼きをしてみたり。先生に暴言を吐いてみたり。ととにかく自分に出来そうなことはなんでもやった。

突然豹変した私の姿を見た母とは毎日、毎晩喧嘩をするようになった。その影響で家族の空気がとても悪くなった。兄からはゴミを見るような目で見られ、弟からはシンプルに引かれていた。

それでも私は転校生とつるむことを辞めなかった。

家にいる誰もが私のことを煙たい目で見ると。こんな家においても全然安らぐことなど出来ない。むしろ家族の目を気にして行動しなくてはいけない。つまりこんな場所は私の居場所ではない、そう思ったからだ。

ある晩、いつも通り出かけようとするといつも通り母親が止めに入ってきた。玄関で数分、母と言い合いをしていると突然、兄が2階の部屋から降りてきた。

今まで母と何度も私が言い合いをしていようがフルシカトをしてきた兄。急に、今更なに？と兄のことを睨むと、兄は私の方に向かってきて突然、私の胸ぐらを掴み壁に『ドンツ』と私を押し寄せた。

「・・・」今何が起きているのか、今私はなぜ宙に浮いているのか。完全に思考停止状態の私に向かって兄は一言、

「てめえ、いい加減にしろよ、殺すぞッ！」

と言い、私の顔面の横の壁を思いつきり「ボゴンツツツ」と殴った。

そして私は床に投げ捨てられた。母は気まずそうに私のことを横目で見て、兄と共にリビンググへと消えた。

その空間に私一人になった。全身に力が入らずその場から一步も動くことが出来ない。「いま何がおきたんだろう・・・」その言葉だけが頭をぐるぐると駆け巡る。

何時間たったのだろう。父が帰ってきた。

「Aya、そんなところに座り込んで何しているの？」

ふと我に戻り急に涙がでてきた。それを見て焦る父の目の前で私は号泣した。

とにかく怖かった、なにより怖かった。母にはそんな恐怖に怯えた娘の味方をしてほしかった。



その日を境に私は、母と兄と言葉を交わすことをやめた。

そんな私も高校生になった。入学した高校は下から数えて1番目、偏差値三十五の高校。

私はとにかく家から出たい思いが強く、早くお金を貯めないと、と学校そっちのけで必死に働いた。

時給620円のパン屋と時給700円のスーパーのレジ打ち。田舎だとこんなレベル。

働くことしか頭がない私は気が付くと単位がギリギリになっていた。

辞めるのか辞めないのか、の話が学校から出た。

すると普段口を出してこない父が珍しく「お金は出すから高校だけは卒業してほしい」と言ってきた。

え、なんで？なんでこんな時だけ口を出してくるの？まじで全く理解不能すぎて。普通にもう無理なもんは無理だし。そう断ると、父は突然その場で土下座をした。

「編入でも通信制高校でもなんでもいいので高校だけは卒業してください。」

高校卒業になんの意味があるかは正直わからないが、普段絶対にしない父の行動に驚いた私は年に1回、1週間通うだけで卒業が出来るという通信制高校を見つけ、そこに編入することになった。

十七歳。父をなんとか説得して自分で貯めたお金で二重整形をしに札幌にきた。

自分である程度お金を稼げる年齢になりとにかく可愛くなりたい、という強い欲が出てきていた。今までモテた経験がなく、自分に全く自信を持ってない。そんな私が可愛くなるために選んだ選択肢は、整形だ。

頑張って貯めた二十六万円を握りしめ、調べに調べた美容外科へと私は向かった。

ワクワク感もあり、でも少し不安もあり。そんな感情の中私は二重と目頭切開の手術をやった。

手術自体はすぐに終わった。痛みも驚くほどなく「これで少しは可愛くなったかな？」とウキウキの気分  
で私は新幹線に乗り地元へと帰った。

家に帰るとたまたま気が緩んでしまったのか、ぼったり母と鉢合わせてしまった。普段はお互いがお互いをスルーするのだが今回は違った。

「・・・。」

「は？ あんたまさか整形したの？終わってんね。」

そんな母のきつい言葉を私は無視し、自分の部屋へと全力疾走で向かった。部屋につくと速攻で内側からカギをかけ電気をつけベットへとダイブをした。

この頃の私かというと、兄と母とは出来る限り家ですれ違わないように夜型人間になり、家に誰もいない昼間に家で過ごし、家族がいる時間帯は働くといったコソコソした生活を送っていた。

十八歳。進路をどうするか問題が出てきた。父からは「まだ働くには早いから、専門でも大学でも短大でも、とにかく学校へ行ってほしい」と言われた。

しかし母からはというと、一方的に話しかけられ「女性は高校卒業したら就職するのが当たり前。学校通うとか無駄金使う甘い事言っていないで働き口探しな。」と言われた。

別に勉強なんて好きじゃないし行きたい学校も特になし正直働いてもいいとは思った。だが、なんとなくその選択肢はイヤだなと思った。

私はなんでもかんでも「自分が正しい」と決めつけ、自分の考えを押し付けようとする母が嫌いだ。私のトラウマにもなった兄との事件で、私を守ってくれずむしろ兄を擁護する母が嫌いだ。

私は「母が選ばない反対する道をあえて選び、尚且つそれで母以上に超絶幸せになり母を見返してやりたい。」そんなことを思った。

一言「全部が全部、あなたが正しかったわけではなかったよね？認めて？」と言いたい。

それを叶えるためにはどうしたらいいか。お金への執着がすごい母をギャフンと言わせるためには・・・

「そうだ！ 将来お金持ちと結婚しよう！」その時そう決心した。

陥りがちな落とし穴「とにかく外見を磨けば結婚できるっしょ。」

十九歳。私は母とは反対の意見を採用し専門学校へ入学することにした。とにかく家から早く出たい思いがある私は、地元から3時間かかる札幌の学校を選び一人暮らしをスタートすることにした。

ただし、親元を離れるには条件があつて。それは学費は父が全額払うが生活費は自分持ちということ。

高校3年間がつつりフルタイムで働いていた私は、実は三桁貯金があつた。そのためまた学校の合間に働けば余裕っしょ、と正直お金のことを簡単に考えていた。

しかし現実はそのなにかはなかった。

学校があるため制限されるバイトの時間。家賃、生活費、服、携帯代、友達との付き合い……。さらに高収入男性にモテるために自分磨きもしなきゃいけない。

正直普通のアルバイトをしたところでお金が全然追いつかないのが現実。だが親に頼ることができない。目に見えて減っていく貯金額。そんな焦っていた私を学校で見つけた先輩が、私をこう誘った。

「Ayaちゃんお金厳しい感じ？ それならさ、一緒に夜のバイトをしない？」

え、夜？ 夜ってあの煌びやかな世界？ いやいやいや、こんな田舎から出てきたモテないブスじゃ無理でしょ。ハードル高すぎ(笑) もし夜で働くとしたら二重整形だけじゃなくて全身整形しなと私は無理で



しょ。

そう思いそのまま先輩に伝えと、

「夜の店ってたくさんあるから全然Ayaちゃんでも働けるお店あるよ！メイクは学校で習った濃い目のメイクをすればいいし、ヘアもできるでしょ？ 服は貸してあげるから面接だけでも一緒にいこうよ！ 今より時間をかけずに数倍稼げるよ！Ayaちゃん素材は悪くないからいけるって。ってことで明日面接ね！」

とグイグイ話が進み、私は先輩と夜のお店の面接へ行くことになった。

翌日。すすきので先輩と待ち合わせをした。何も悪い事をしていないが、私はビクビクしながら下をむき

すすきの道を歩いていた。「こんなところ学生がくる場所じゃないよ・・・泣」

やっと待ち合わせ場所につき、私は先輩の後ろに隠れながら約束のお店へと入った。

中から出てきたのは眼鏡をかけたひよろ長いスポーツ刈りの30代くらいの男性。あまりにも「普通」な人が出てきて正直拍子抜けだ。

面接が無事に終わり、二人とも採用になった。

面接中にすれ違った女性は全員が全員芸能人クラスの美人というわけではなく、正直この人でも夜働けるの？　と思うような女性も数名いた。その安心感からか私はこの店で働くことを決めた。

仕事自体は今までのアルバイトと比べると決して簡単ではなかった。だが、こっちの仕事の方が楽しく感じた。さらに予想以上にお金になった。

お金と時間に少し余裕が出てきた時将来お金持ちと結婚するため、また今のバイトにも生かせるためにはどうしたらいいのか研究をすることにした。

モテや婚活本100冊以上購入し、時々セミナーにも参加。モテ発信しているブロガーさんで勉強。

「ハイスぺ狙いならハイヒール一択！」

「ハイスぺ狙いなら清楚系で攻めろ！」

「ハイスぺ狙いならパンツより断然スカート！」

「ハイスぺ狙いならナチュラルメイクで攻めろ！」

「愛され女子は褒め上手！」など。

そうこう勉強して私がたどり着いた答えは「見た目勝負」と「オーバーリアクション」だった。

それがわかると専門学校の友達からの遊びを全て断り、学校以外の時間は全てホステスのバイトに時間を当てることにしました。そしてその貯めたお金で、整形、脱毛、歯の矯正、ホワイトニング、中古のブランドバック、トゥモローランドの服などの外見磨きに使いいった。

外見にある程度自信をつけた私は「あとは男性に合わせて褒めればいいだけだ！」とお金持ちなんて余裕で落とせるでしょ！と根拠のない自信でいっぱいだった。

そうしてスタートした婚活。やはり現実には全然甘くはなかった。

「将来お金持ちの男性と結婚する」これが目標にも関わらず7つ上の彼氏に、現金で七十万円もの大金を渡してしまった。

またホステスの仕事では、自分磨きをしたにも関わらずナンバーには入れず。むしろお客様からは

「きみと話していても面白くない」

「君って外見だけ綺麗にしている、中身ないね(笑)」

「今二十一歳なの？若さだけが取り柄だねー」

と全くもって相手にされてすらいない。

さらにやっつと、やっつの思いでお金持ち（経営者）の男性と付き合えた！と思ったら全然、いや一切、大切にされていない。

「・・・」

いやなんで？　なんでこんな結果なの？　本気で全く理解ができない。自分磨きにいくら使ったと思ってるの？　400万円以上だよ？　友達の遊びも断り学校以外は全てバイト。こんな結末ある？　あまりにも人生は残酷すぎるよ・・・。

もうこれ以上どうすればいいの・・・。

この時期の私は婚活に関して完全に迷走していた。

## お金持ちの都合の良い女の特徴

迷走中もやっと付き合えたが大切にはされていない彼との関係は続けていた。ここだけの話、今思い返してみると彼から「好き」とは言われていたが、付き合っただけとは言われていないような気もしなくもないよな……。だが会うたびにやることはちゃんとやっていたから私はきつと彼氏彼女の関係である、と信じていたかっただけなのかもしれない。

過去を振り返るとそんな彼からのお誘いは決まってほぼ当日だった。

昼過ぎ。lineが鳴った。

「今日の夜、会社の人達とご飯行ったあと会える？」

「大丈夫だと思うけど、大体何時頃かな？」

「えー、正直読めないなあ。終わったらlineする」

1か月ぶりにまた、予定が読めない誘いがきた。

しかし私はそのlineを見ながら少しニヤついている。「やっと会える！」そんな思いでワクワクしながらどの服を着るか考える。やっぱり清楚系が正義だよね。下着は何にしよっかなあ。新しいの買っとけばよかったー。そんなことを思いながら瞬時にバイト先にlineを送る。「今日体調悪いんで休みます」

正直何時に会えるかはわからない。だけど予定が早く終わることも想定し、私は20時には全ての準備を



終わった。

「まだかなー。早く会いたいな。」

ふと時間を確認すると、時計の針が22時を示している。さすがにlineを送ることにした。

「お疲れ様！ 今ってどんな感じかな？」

2時間がたち返事が来ない。さすがに不安になってくる。

「忙しいところごめんね。さすがに今日はなしって感じかな？」と泣きそうな思いでlineを送る。

・・・夜中の2時。

・・・夜中の3時。

返事が来ない。待っても待っても既読にすらならない。

「もう寝ようかな。」そうしたいのは山々だが、約束していたからもしかしたら会えるかもしれない。そんな少しの希望にかけ、どうしても化粧を落とすことができない。どうしよう、明日も朝から学校あるから寝なきゃいけないのに……。ナシならなしでいいから返事くれればいいのに……。そんなことを考えながら私は、いつも通り化粧を落とさずlineの通知音を爆音にしてベットに入った。

翌朝。「ごめん、昨日の夜飲みすぎて潰れてたわ。今度埋め合わせするね！」

そんな軽々しいいつも通りのlineがきた。ここで怒りさえすればいいのだろうけど、彼に嫌われたくない私はそんなことはできない。あくまで彼の仕事に理解ができる大人な女性でいたい。

そんな思いがあるため、例えばドタキャンされてもいつも返信はさっぱりめで返すようにしている。

「おはよ！ そうだったんだね。二日酔い大丈夫？ 了解だよ、待ってるね！」

今思うと良かれと思ってしていた行動こそが、自分自身を都合の良い女にしまっていたんだろうなと思う。だが当時私はそれに気が付くことはできなかった。

むしろ、

「経営者だもん、忙しいのは当たり前前だよね。」

「経営者だもん、予定立てられないのは当たり前前だよね。」

「経営者だもん、月1回くらい会えていれば十分だよね。」

と、自分自身をなだめ自分にとって都合がいいように自己解釈していました。

彼の誕生日。専門学生の私なりに頑張って奮発して買ったグッチのマフラーを彼にプレゼントすることにした。

もちろん彼の誕生日当日には会うことが出来ない私は、少し早めの日程で彼に会うことになった。レストランは彼が珍しく事前に予約してくれ、新店のステーキハウスへ行くことになった。

私は久々のちゃんとしたデートに浮かれ、新品の下着に一番お気に入りの可愛いワンピースを着てウキウキでお店の前まで向かった。

到着して彼を待っていると、珍しく定時に彼がやってきた。お店に入り着席し、私はプレゼントを彼にすぐに渡したくてソワソワしていた。

タイミングを見て彼にプレゼントを渡す。

「コレ、誕生日プレゼント！ ○○くんがどんなの好きか分からなくて……。店員さんと相談して決めたんだけど、大丈夫そうかな……。？」

「。。。。。」

「えッ！ まじ？ 全然いいのに。嬉しー（棒読み）開けていい？」

「いいよ！」

彼はその場でプレゼントを開け「おっ！ マフラー？ いいねー」といい、箱からマフラーを取り出しその場で身につけた。

「どう？ 似合ってる？（ニコツ）」

そんな喜ぶ？姿を見た私は本当に奮発して買ってよかったあ、と心の底から安心した。

しかし「あれ？今回もあのマフラーつけてくれていない・・・。」

実はあの日以降、私とそのマフラーを見ることは一度もなかったのです。

数か月後、次は待ちに待った私の誕生日！

彼の誕生日に奮発して結構高いマフラーをプレゼントしていた私は、経営者の彼からどんなお祝いをしてもらえるのかな〜♪と、胸を躍らせとても楽しみにしていた。

どんな素敵なお店でも着ていけそうな上品な服を奮発してトゥモローランドで買った。美容院で良さそうなトリートメントもした。

自分なりに準備が整ってからは、カレンダーを見て「残り〇〇日かあ〜。」とひとりでカウントダウンをした。自分の誕生日を考えているだけだとにかく毎日がハッピーだった。

しかし、彼から誕生日デートのお誘いは一向にない。

「なんでだろう・・・。私の誕生日は知っているはずなんだけどなあ。」彼から連絡がこない、とはいえ自分から誕生日のことを言いだすのもなんか違う気がする・・・。図々しいと思われたくないし。

途中からあれだけ胸を躍らせていた自分の誕生日が、近づけば近づくほどどんどん不安が大きくなっていく。連絡を入れようか、入れないか。Lineとにらめっこしては、やめ。またlineとにらめっこしては、やめ。そんな無駄なことを繰り返す。

「友達からの誘いも断っちゃってるし、本当にどうしよう・・・。」と悶々と葛藤をしていると、時計が0時を指した。



そう、私は自宅で一人。一つ年を重ねた。

彼からこのような扱いをされていると友人からよく「なぜ別れないの？」と聞かれる。

「うーん。彼以上の人がもし見つかれすぐにも別れられるけど、そんな人いないもんなあ。」

「彼から好きとは言われているし、食事に行くときいつも素敵なところに連れて行ってくれるから、私のこと好きなのは間違いないと思うんだけど・・・。彼は経営者だし色々難しいんじゃないかな・・・。」  
と、その都度友人に告げていた。

でも今思うとこの綺麗ごとの言葉の裏側は、自分が彼にとって都合の良い女ということ「認めたくない」

ことから出てきた本音とは違う、とって付けた言葉だったんだと思う。

こんな傍から見たら絶対に幸せな未来が待っていない恋愛から私を救ってくれたのは、一人のお客様とバイト先のチーママだった。

「私、本当にこのままでいいのかな？」と学校卒業も近づき、色々な意味で将来への不安を抱えていたとき、一人のお客様が初回にも関わらず私指名でお店に入ってきた。

そのお客さまが結構、いや相当変わっていて。席に着くなり

「何歳？」

「ほー。若いな。出身は？」

「ほー。そんな田舎からはるばる出てきてなんでこの仕事してんの？」

と私に質問攻めをしてきました。

過去に色んなことがあり自分の話をするのが苦手な私は、基本お客様にはプライベートな話をしません。ですが今回ばかりは、色んなことに疲れ切っていたためどうしてもよくなり彼の質問に答えていくことになりました。

「家族関係があまり良くなくて・・・。」

「学歴のこともあるが、将来どうしてもお金持ちの男性と結婚したくて・・・。」

「自分なりに結構頑張ったが、全く上手くいかなくて・・・。」

そんな私の話を聞いたお客様が一言こういった。

「そんなことやっても一生金持ちからは好かれんぞ」

「・・・?!」

この言葉を聞いて私は一瞬気絶しそうになりました。

なぜなら今まで自己投資した四百万円以上の努力が全く意味無い、と言われていたようなものだからです。

驚きを隠せない私はついつい熱量が入りヒートアップして逆に彼に質問攻めしました。

「え？でもお金持ちの奥様たちってみんな綺麗ですよ？ 洗練された服を着て、靴は決まってハイヒール。伊勢丹やトゥモローランドでお買い物しているお金持ちそうな奥様達をたくさん見ました。私は形から入り、それを真似したんです。」

「・・・(笑)」

「Aya、お前って何にも知らないんだな(笑) 金持ちの嫁ってみんながみんな綺麗じゃないぞ。結婚相手を外見だけで選ぶ馬鹿いないでしょ。俺たちのことなんだと思ってるの(笑)」

・・・言われてみればそうかもしれない。みんながみんな綺麗、というわけではないかもしれない。こんな私が言える事ではないが、正直なところ「え？　なんでこの人がお金持ちと結婚できたの？」と思ったことはある。

「・・・そうなんですか？　じゃあ私はこれ以上何をすればお金持ちから好かれることができますか？」  
「別に俺が教えてあげてもいいけど、ある程度本気なら店のママにもちゃんとアドバイス貰ったほうがいいよな。あと来週の火曜日同伴な。」

そのお客様はある程度会話が終わると1セット（六十分）で風のように帰っていった。

なんかすごいお客様だったなあ。お金持ちから好かれる方法って本当に教えてもらえるのかな・・・？

そんなことを考えながらそのお客様が帰ったあと、念のためお店の人に「先ほどのお客様ってどんな方な  
んですか？色々プライベートなことも話してしまつて・・・」と確認をした。

するとそのお客さまは代々不動産会社を経営している家系の方で、自分が気に入った新人や若い子に色んなことを教えてあげるのが好きなお客様ということが判明。

それを聞いて一安心し、藁にも縋りたい思いの私は彼を頼りにすることにした。

年収1億円越えの男性から聞いた「高収入男性からモテるためにやるべきこと。」

同伴当日。お気に入りのトゥモローランドの洋服を着てブランドバックを持ち、気合いを入れて待ち合わせの寿司屋へ向かった。店の前にはすでに前回会ったお客さまがいた。

「おいー。まじかよ。なんでそんなおばさんみたいな服着てきたの？ それどこの服？」

「え？ 一応トゥモローランドの服です・・・。」

「・・・はあ？ あそこの服の年齢層って三十代〜四十代だぞ？ 知っててそこで服買ってんの？ 変に背伸びしないで年相応の服装しろよ。バックも含め、身の丈に合ってなさすぎて全然似合っていない。」

「・・・。」



「私ってそんな風に見えるんですね……。今まで誰にも服やバックのこと言われたことなく気が付かなかったです、すみません。」

「そんなの、こっち側はわざわざ教えてあげるメリットがないから例え変だと思っても言わないよね。女の子に気に入られたいし。」「ちなみに俺なんてこの服ユニクロだよ？ダウンはモンクレールだけどね。」  
つまり、服は似合っていればなんでもいいんだよ。無理に背伸びする方が服に着せられてる感があつて、くそダサイ。」

私はお寿司屋に入る前にすでにたくさんのダメ出しをされた。

さらにお寿司屋に入ってから、

「Ayaさ、新聞ちゃんと読んでる？」

「毎日ニュースはチェックしてる？」

「本読んでる？」

「そもそもまずは痩せろよ。」

と私は何一つ、お金持ちから好かれるための基礎という基礎が出来ていないことが判明した。今までは若いというだけでなんとかなっていたようだが、高収入男性からまともに相手されたいなら、今のままでは全然ダメらしい。

まず社会人としてニュースを毎日チェックしていないのはやばいらしい。言われてみれば仕事で突然流行りの難しい話題が出た時私は会話に入れなかった。男性はそういうところをちゃんと見ているらしく、そ

の時点でこいつはやるだけならいいが、本命はナシってなるらしい。

また、高収入男性は本をよく読み、本からも情報収集している人がとても多い。感覚を合わせるためにも、本は読んだ方がいいらしい。馬鹿こそ本を読めと言われた。最後に、高収入男性は食や健康に気を付けている人がとても多いから、万人受けを狙うなら普通に痩せろといわれた。

その後、お店でチーママにも「お金持ちのお客様に好かれるためにはどうしたらいいのか、アドバイスを頂きたいです。」と聞いた。

すると、チーママがくれたアドバイスがまさかのさつきお客様が言っていたこととほぼ同じだった。

「ニュースはちゃんとチェックしてる？」

「普段本読んだり、勉強はちゃんとしてるかな？」

「売れている女性は、どうしたらお金持ちの男性に好かれるのか試行錯誤し、必ず努力をしているの。例えば興味が一切なくても、時間を作って朝からゴルフしたりね。共通の趣味って最強ってよく言うじゃん。」

「あと何より大事なのが気遣い。自分がされて嬉しいを恥かしながらにお客さまに全部やってあげて。きつと倍返しで返ってくるから。」

「最後にあれだね、Ayaちゃんはもう少しだけ痩せた方がいいかな？ 中途半端が一番ダサいからね。頑張ってるね。」

当時の私は、160センチで52、3キロ。決して太っているわけではないと思うが、お金持ち男性から好かれないのであればもう少し痩せた方がいいらしい。まあ言われてみれば、ホステスで売れている人た

ちは努力をされていて私よりももっと痩せている。

ニュースのチェックや読書なんて本当に興味が無さすぎて一切してこなかった。ゴルフもお店のママから誘われたことがあったが、日焼けしたくないし朝早いとか勘弁して、と思ってやってこなかった。

決定的な気遣いなんて一切できていなかった。常に見返りを求めた行動しかしておらず今思うとちゃんと相手を思いやった行動（気遣い）が一切出来ていないな、と素直に思った。

私は早速行動に出た。お客さまから何系の本を読めばいいのか、またお勧めの本なども聞き買いに行った。朝と出勤前の夕方に必ずニュースをチェックするようにした。目標体重、期間を決めジムにも入会した。

お客様に似合わないと言われた服をセカストへ売りに行き、そのお金で年相応の服屋とユニクロに行き、

洋服を買った。持っていた身の丈に合っていないブランドバックを売り、代わりにサマンサタバサでバックを買った。

アルバイト出勤時には、お客様に自分がされて嬉しいことをできる範囲内で全部やってみた。同伴の時、レストランでお客様のグラスが空きそうになったらメニューを取りドリンクページを開いて渡し「次、何飲まれますか？」と聞き店員さんと呼んだり、焼き肉店へ行くときは率先して肉を焼く係になったり、カニのお店へ行ったときは「お客様」の手が汚れないようにカニの身を殻から出した上で渡したり。

これらは実際に過去にお客様からされて嬉しかったこととお客様にされる前に率先して自分がやるように変えた。

またお客様に高級レストランへ連れて行って頂いた際に「お客様」が恥をかかないためにもマナー講座を受講した。

このように「相手」基準で物事を考え、行動するようにした。

すると不思議と食事をご馳走してくれる、お店へ来てくれるお客様への感謝の気持ちが出てくるようになった。

今まではお客様に対して「若い私と食事へ行けてラッキーだね」と思っていたが、食事をご馳走して頂ける分私に何かできることはないかな・・・？ せめてお客様が居心地の良い空間だったと感じて思えるような気遣いをしよう！ とまで考えられるようになった。

今までよりも日々が忙しくはなったが、なんだか身も心もとても充実していた。

3か月後。

顔出しもせずアルバイト勤務にも関わらず、ホステスの仕事でナンバー5に入った。そして時給が2倍になった。

お店経由だが弁護士、医者、不動産経営者、建築会社社長、野球選手から付き合っしてほしいと本気で告白された。弁護士さんに関しては「僕はすでに一軒家も持っているし、生活に絶対に困らせないから結婚して欲しい」と付き合ってもいないのにプロポーズをされた。



なに、この変化？ と脳が全然追いつかない。

さらに仕事経由ではあるが、ホリエモ○やフランフラ○の社長などの大企業の方とも定期的に飲むようになった。旅行で東京へ行った時には、六本木の地下にあるいくらするのかわからない超高級の会員制バーに誘われ、そこでは今までは出会う事すらできないすごい人達との人脈が出来たりした。

たった3ヶ月、集中して正しい努力をしただけで「こんなにも変わるか？」と疑うほどに自分自身とまわりが変わった。

また日々の努力のおかげか、あんなに自分に自信を持てなかった私が、少しずつ自分に自信が持てるようになってきた。

ちょっと前まで高収入男性から完全に弄ばれていたこの私が、逆に男性を選ぶ側の立場になれたんだから、本当に驚きを隠せない。

当時読んでいた本に

「人は、本気で変わろうと思えば1秒で変わることが出来る」

と書いてあったが、本当にその通りだと自分で実感した瞬間だった。

色々とアドバイスをしてくれたお客様とチーママに報告をしに行った。

お客様からは

「Ayaが努力をして人間性を高めたからこそその結果じゃない？ 人として魅力がある人が結局モテるからねー。自分を偽っちゃダメよ。」

と言ってもらえた。

チーママからは

「Aya、色々頑張ってたもんね。その結果だと思うよ。引き続き気を緩めないで頑張ってね！」  
と言ってもらえた。

友達と遊ぶ時間の全てをバイトと習い事に注ぎ込んだ。時間があるときは読書をし、興味もないのに毎日ニュースチェックもした。ダイエットも諦めずに定期的にジムに通い、続けることを意識し、マイナス5キロ痩せることが出来た。

この期間は本当に娯楽が無く、日々ただ忙しく過ごしていた。また、友達付き合いがすごく悪かったため、学校で孤立するときも正直あった。休み時間はお客様への連絡返しでなんとか気まずい時間をやりすごしたこともあった。

本当のところもうあんな大変な思いをすることは正直ごめんだが、あの期間、本気で努力をしてきて素直に良かったな、と今は強く思う。だって、あの努力が無かったら私は今絶対に玉の輿になんて乗れていないと断言できるからね。

その後、私は就職ではなく留学の道を選んだ。

学生期間に夜のアルバイトで仲良くして頂いていた先輩から海外旅行に誘われ、人生初めて国外へ出た。その時に価値観がすごく変わり、就職する前にもう一度だけ行きたい、そう思ったから。

留学期間は当初の予定よりも長く約3年間いた。

面白いのが、まさかの留学先でも高収入男性に出会え、モテ、交際することができたこと。

海外では付き合うまでの期間が曖昧だったりするのできちんと「交際」していたと言える相手は、

「中国系カナディアン二十五歳、貿易会社社長。」ご両親にも挨拶を済ませ、約1年間半同棲。

「韓国系カナディアン二十九歳、クリニック3店舗経営のオーナードクター。」約半年間交際。

「フランス人のトロント大学（東大より頭がいい）の外交官を目指している年下学生」半年間交際。

「香港人二十四歳、ご両親が資産家の息子（家3億円の豪邸住み、家の前にベンツ3台）」約半年間半同棲。

資産家の彼とは結婚の話も出ていた。

また、向こうで知り合った友人の中には毎回みんなの遊び代を奢ってくれる、プライベートジェットを持っているドバイの同い年の学生や、北米に3台しかないランボルギーニを持っているご両親が香港でホテル経営をしている息子（そのランボルギーニに乗らせてもらった）などもいて。

海外のお金持ちって桁違いとよく言われているが、まさにその通りだなと実際にカナダへ行き、実感した。それと同時に

「今まで私はなんて、なんて狭い世界で生きていたんだろう・・・。」  
と少し恐怖にも思えた。

この経験から分かったことが私がただ知らなかっただけで、お金持ちなんて世の中にはウヨウヨいる、ということ。そしてこんな田舎から出てきた私にでもお金持ちと知り合い、付き合い、結婚するというチャンスはいくらでもある、ということ。

さらっと恋愛の話しかしていませんが、カナダでは本当に素晴らしい経験をたくさんしました。実際のところカナダで玉の輿に乗り、まったり専業主婦生活をすることもできましたが、私は日本に帰ることにしました。

二十五歳。帰ってきた日本では、英語を使う営業職に就いた。

婚活歴6年目で気が付いた「婚活と就活はほぼ同じ」という事実。

国籍問わず、高収入男性からある程度モテるようになった私は、あとは自分が理想とする結婚相手を見つけるだけの状態になりました。しかし、ここで私はまさかの落とし穴にハマってしまいます……。

それはどんな高収入男性に出会っても

「この人、年収1500万円かぁ……。微妙だなー。」

「この人、年収1億だ！ただ、十五歳も年上かぁ……」

と理想が鬼ほど高くなっていたのです。



国内で有名な事業家の人達と知り合い、海外でも桁違いのお金持ちと出会い、交際し。

そんな後に本格的に婚活をスタートすると、誰と付き合ったら正解なのか、誰と結婚すればいいのか。そもそもその人のことが好きなのか、その人のお金が好きなのか、色々とよくわからなくなっていったので。

そんな状態で友人と婚活パーティーや合コン、色んな出会いがある場所へ行くが、ピンとくる人は一切いない・・・。

とにかく数打ち当たろう！ と、休日に年収問わずたくさんの男性とのアポを入れる。が、全く良い人が1ミリもない・・・。負けじと次のアポへと向かう。わかってはいたが、全然ピンとこない。その繰り返し

返し。

婚活に全く終わりが見えない。私って本当に結婚できるのだろうか・・・と、とても不安になってくる。

元々の結婚したかった年齢は実は二十三歳。これは母親がその年齢に結婚したからだ。ですが、その年齢には結婚することができず、次の目標が二十六歳。もう1年もない。どうしよう・・・。

そんな時、読み漁っていた婚活本と定期的に読んでいるビジネス本。友人の一言からヒントを貰い、私は婚活のコツを知ることになる。

え・・・。もしかして・・・もしかして「婚活って就活と同じ?!」

ふと、そんなことを見つけた私は、就職活動の時のように戦略を立てて婚活をしてみることになりました。まずは自分自身と向き合い、具体的にいつまでに、どんな企業に就職したいか（どんな相手と結婚したいか）を考え、目標設定をし、それをノートに記入した上でいつでも目標確認ができる場所に置いておきました。

- ・いつまでに結婚（∥就職）したいのか？
- ・どんなお相手と結婚したいのか？（∥どんな企業）
- ・その目標を達成するためにはいつまでに結婚相手（∥目星の企業）を見つけるべきなのか？
- ・つまり、ひと月何人の人と会う（∥何社面接へ行く）べきなのか？
- ・1週間何アポ入れるべきなのか？

さらに具体的に

・理想とするお相手と結婚するために自分がやるべきこととは？（〓その企業に入る為にはどんなスキルが必要なのか）

・結婚相手に求めること3点（〓会社に求める条件）

・譲れない条件3点（〓会社を選ぶにあたって譲れない条件）

・結婚後の生活を具体的にイメージしておく。（〓入社後のイメージ）

など。就職活動でもきつとこのように考え、事前に決めた上で戦略的に就活するかと思います。「いつまでに就職したいのか？」「それを達成するためには月に何社応募すべきか」「自分のアピールポイントはなにか？」「就職するに当たって、譲れない条件」「就職先に求めている条件」「自分が理想とする就職後の生活

イメージ」「それらを叶えるために、今自分に足りないスキルとは？」など。

もちろん自分も選ぶというのが前提ではあるが企業から、お相手からも「選ばれなくてはいけない」という点では婚活も就活も同じだと思います。

それにも関わらず、私含め婚活が上手くいっていない人たちは「そろそろ就活しなきゃなー、とりあえずきになるところ何社か応募しとこつと♪」と事前に一切準備せずに挑んでしまっているかと思います。そんな土壇場で自分を上手くアピールできるほど皆さんは上手に立ち回れるのでしょうか？

ちなみに私は無理です。私は容量がよくないため事前準備がある上で本領を發揮できるタイプです。そのため急に知らない戦場に放り出されてしまったら、その場から一步も動けず戦力外になってしまいます。

みなさんはどうでしょうか？

正直なところ若い人の結婚は、失敗なんてほぼ考えずにノリと勢いで子供を作ったり、結婚しちゃっている方が多いため、大人よりも結婚が簡単にできてしまっているかと思っています。

反対に大人の婚活は「結婚するからには絶対に失敗したくない」とそんな思いが先行してしまい、中々一歩を踏み出せない方が多いかと思っています。

そんな大人の、重く鈍い足を一步踏み出させるためにも「事前準備」つまり「戦略」がとても大切だと私は気が付いたのです。

事前に目標設定を終えた私が次に行ったことは、就活でいうとこの資格習得です。私は就職活動でいうところの「外資系入社」を目標としているため、その企業はどのような人材を求めているのか、私のような低学歴でも入社することが出来る抜け道のスキルや企業はないか、などリサーチをし、必要そうなスキルを取得することにしました。

全ての事前準備を終え、婚活を再スタート。そんな私の今回の目標は、半年以内に条件に当てはまる結婚相手を見つけること。

そのためこの半年間、今までにないくらいの行動量で本気婚活をしました。

すると、今まではどんな人に会ってもピンときていなかった私がまさかの「この人だ！」と思える人に

たった3ヶ月で出会えたのです。

出会った後は「彼の事を絶対に逃さない」ためにも、戦略的に自分から行動していきます。就活でいうところの「私こんな事も出来ます!」「私を逃したら御社にとって損ですよ!」というアピールですね。

上手にアピールをしていき、彼と出会って1か月後には交際。その1か月後には同棲。そしてその1年後には結婚。と、驚くほどにトントン拍子にことが運びました。

そんな彼、というか私の夫は入籍当時三十歳で年収3000万円。都内高級タワーマンション住みのいわゆる高収入のハイスペック男性です。家賃は駐車場込みで四十五万円。私は彼から毎月三十万円を頂き主婦をしています。



まさに、念願の私の夢が叶った瞬間です。

結局結婚した年齢は二十七歳にはなりませんが、そんなの正直誤差です、関係ありません。そんなことよりも私は、当初想像していた理想以上の結婚をこんなにスムーズに手に入れることができ、ビックリしている反面、嬉しすぎて体が震えました。

その後はあれだけ仲が悪かった母とも子供が生まれたことがきっかけで和解？をし、今では普通に話せるようになりました。そんな母が、私がいなくてところで夫に言っていた言葉があります。

それは

「もしかしたら私って育て方間違っていたのかな・・。」

元々は、母を見返したいとの思いで9年間もの長い間ただひたすら諦めずに玉の輿狙いの婚活をしています。今思うと母へのその強い思いがあったからこそ、私は最終的に理想以上の幸せを掴むことができました。んだと思います。

田舎で何事もなく、ただ平凡に過ごしていたらこんな素敵な生活を送ることは出来ていなかったでしょう。また母を許すこともできなかつたでしょう。色んなことがありましたが、今では母には感謝をしています。

9年間の婚活からわかった高収入男性と結婚するために必要な事

「共通、共感、同じ」が如何に大切か。

人生の目標だった「将来お金持ちと結婚する」を達成した今、色々なことが見えてきたのでみなさんにお伝えしたいと思います。それは「共通、共感、同じ」ということが如何に大切か、ということなのです。

人は「同じ」というだけでその人に心を開いたり、興味を抱きます。

もしあなたが婚活でたまたま出会った男性が、あなたと同じ地元出身で同じ趣味だったとします。どうでしょう、例えタイプじゃなかったとしてもその方に興味湧きませんか？ 意気投合しませんか？ 初対面にも関わらず話が盛り上がりませんか？

さらに食の好みも同じだったとしたらどうでしょうか？「もう運命かも！」って思っちゃいませんか？

そのくらい共通の趣味や同じ、という感覚はとても大切になります。そしてそれらは勉強と努力でいくらでも作ることができます。

約3年半、ホステスとして働いていた私の経験から、高収入男性には共通していることがいくつもありま  
す。それは、

趣味がゴルフの人が大半。健康のために食に気を付けている、ジムに通っている、ランニングしている、  
トライアスロンに参加している、という人が大半。英語が喋れる、または英語を喋りたいと思っていると  
いう人が大半。あとは車が趣味という人も大半。旅行好きの延長線上でダイビングの資格を持っている、

シユノーケリングが好き、という人が大半。

また、高収入男性に限らないですが男性というくくりでいうと人類のほとんどの男性はラーメンが大好きということですよ。

自分が将来結婚したい高収入男性はどんなことが趣味なのか、どんなことが好きなのか、を考え見つけ自分も同じことを趣味にする、同じことを好きになる、または勉強する。

それが出来れば強い強みになります。

ちなみに私は比較的どのお金持ちの層にも自分が刺さるように、趣味がゴルフや運動系（ジムやヨガ通い）。

食に関しては簡易的ではあるか栄養士の資格取得済み（ダイエットを考えた食の献立作りができたり、アドバースが出来る。）

海外旅行も好きで英語が話せる（忘れないために婚活をしていた当時は英会話通い。）車に関してはある程度話が出るように、興味は一切ないがネットや雑誌で知識を入れる。またラーメンは元々好きだったのでそのままラーメン好きで。

とほぼ全てを取り入れていました。（ダイビングやシュノーケリングに関しては、三半規管が弱く昔から酔いやすいため断念）

今思うと正直ここまでやる必要はありませんが、ある程度共通のものを作っておくだけで初対面で話が盛

り上がり、次に繋がりやすくなります。

ただこのような話を私が婚活女性にすると

「そこまでして私はいいや・・・。」

「無理してまで高収入男性と結婚したくないし・・・。」

と思う方が結構います。

ですが、今のご時世結婚にメリットを感じていない男性ばかりがいる中で、少しでも経済的に安定した相手と結婚したいのであれば努力は必ず必要だと私は強く思います。

結婚相手はあなたの父親、母親ではありません。赤の他人が寄り添い、お互い努力をし、協力して良い結婚生活を作り上げていくものです。勘違いしがちですが、ありのまますぎるあなたを受け入れてくれる理想のハイスペック男性は今の時代いるのでしょうか？よく考えて頂きたいものです。



「好印象の為には必須の聞き上手になる方法」

高収入男性と仲良くなれるきっかけを学んだ次に必要なことが聞き上手なことです。これはモテる男女や営業上手な方のほぼ全員が出来ていることです。

まず知って頂きたいのが基本、人は話したがりです。

友人や家族と話しているときを思い出してほしいのですが、あなたのたった1つの質問に対して相手が長々と質問からずれた他の話もしてきたとします。そういった時「正直退屈だな」「はいはい」と思っただことはないですか？

ただ、逆にあなたが「最近どう？ 仕事とか順調？ プライベートは充実している？」と相手から聞かれた場合、どんどんヒートアップして食い気味にたくさん自分が話をしちゃった、なんてことはありませんか？

このように基本人は、自分の話を聞いてほしい、話したい、そんな生き物です。

また、そんな自分のくだらない話を真剣に聞いてくれた人に対して人は、充実したひと時に感じその相手のことを信用します。

つまり人とは、自分が楽しくたくさん話ができるととても気分がよくなり、自分の話を真剣に聞いてくれた相手を信用する生き物なんです。

これは私が就職した営業の会社で習ったことです。相手に信用されたいのであれば、極論自分1割、相手に9割話をさせろ、と。

私はその営業術を意識し相手に話をさせることだけに集中し、最後に少し営業をかけました。すると、なんと即決で250万円→400万円の契約が取れるようになり入社2年目で主任に昇格しました。

この営業術を知っているのと知らないのでは、人間関係において大きな差が生じるレベルだと私は思います。

女性はどちらかというと自分の話を聞いてほしい！ と話したがりな方が多いと思います。婚活で男性から1つのことを質問されたとして、5→10倍にして返してしまっている、という心当たりがあるかたも

多いかと思えます。ふと、男性の顔を見るとつまらなそうにしている……。なんて経験あるのではないのでしょうか？

これではダメですよ？

もしこのような女性と一緒にになると、毎日鬼のようにつまらない話ばかり聞かされるぞ。と男性から警戒されてしまいます。女性が自分の話ばかりをしていてもモテるのは、若い時で尚且つ年齢が離れている男性といるときだけです。いるだけで癒される、何喋ってても可愛いね〜状態じゃないと正直厳しいかと思えます。

では、大人の女性の婚活ではどうすればいいのか？

それは、ずばり「相手に話をさせる」ことです。

でも、気心が知れていない男性と会うと上手く話せなくて無言になってしまうことが多いです。という方もいるかと思います。

ですが、相手に「興味を持つ」ことさえできれば、基本話が途切れることはありませんのでご安心ください。

なぜなら相手に興味さえあれば、疑問点や質問がどんどんでてくるからです。

下記の画像の会話を見て下さい。

## 例

① 会社経営しています！



② すごいですね！  
ちなみになんの会社を  
経営しているんですか？

なんで経営者になろうと  
思ったのだろう？  
何系の会社だろう？  
従業員何人くらいいるん  
だろう？



③ 建築関係ですね！



④ そおなんですね！  
建築業界は正直コロナの影響とか  
大丈夫でしたか？



建築関係はコロナ大丈夫だったかな？  
ちなみにコロナの影響で趣味とか変わ  
ったりしたのかな？次聞いてみよう！

このように相手が話した一言一言に疑問をもち適切な質問をしていけば、会話は途切れません。イメージはカウンセラーになった感じですよ。

カウンセリングがとても上手なカウンセラーは話を引き出すのがうまく、相手についつい話しすぎちゃった、とさせることがとても上手です。それを目指すイメージですね。

ここでひとつだけ聞き上手になるための重要なポイントがあります。それは、相手が気持ちよく話ができる話題を見つけそれを深堀することです。

仲良くなっていたら何を聞かれようが問題はありませんが、初対面の段階でなんでもかんでも質問攻めするのは違います。「おいつつですか?」「ご出身は?」「ご兄弟は?」「職業は?」などの質問を連続的にす

るのは職質を受けているように感じるのでNG。

そうではなく一連の流れで質問をし、話を深掘するのが正解です。

例えば、

女性「ご出身はどちらですか？」

男性「福岡です。」

女性「福岡いいですね！ 一度旅行へ行ったのですが、何食べても美味しく感動しました。特にもつ鍋がとっても美味しかったです！ 地元の方も普段からもつ鍋召し上がるんですか？」

男性「福岡いったことあるんですね！ 地元の方は残念ながら逆に食べないですよー(笑)」

女性「そおなんですね！ まあ、でもよく聞きますよね、いつでも食べれちゃうと逆に食べなくなっちゃうって(笑) 東京に来てから逆に地元の食事が恋しいってなりました？」



のような言葉のキャッチボールが理想です。相手に興味さえあれば必然的に相手の一言から質問は生まれてくるはずです。そして相手に話をさせる。これが最も重要な事です。

ちなみに男性がつつい熱が入って話してしまう、深掘しやすい話題、質問としては

「学生の頃はどんな感じだったんですか？」

「○○さんは、学生の頃から経営者になる野望とかあったんですか？」

↓などの学生の頃の話はみんな比較的話しやすく、深掘しやすいです。

「いつ頃からゴルフ始めたんですか？　ちなみに〇〇さんの上手くなるコツとかがあってあるんですか？」

「〇〇さんが初めて行った海外ってどこだったんですか？」「ずばり、海外の魅力ってなんですか？」

↓趣味の話を男性に質問すると、専門家のようにたくさん話して貰いやすいのでおすすめです。

あとはジャンル問わず

「〇〇するのにきっかけってあったんですか？」

↓このように相手に何かを始めたきっかけを聞くと相手が話してくれやすいです。

このように、ポイントを抑えて少し意識をして会話をするだけで、話がめっちゃめっちゃ盛り上がります。また、男性は気分が良くなってたくさん話しをしてくれるようになります。

たくさん話しをすることで「この子といると楽しいな、居心地がいいな」に変わります。

結果心を開いてくれ、私に興味を持つようになります。これが聞き上手のゴールです。

ここに到達すると、男性はあなたのことを知りたくなり、逆に色々質問をしてきます。

「そういえばいつも俺ばかり話しちゃってて、○○ちゃんのことあまり知らないじゃん！ 教えてよ！」

「あ！ごめん。なんか○○ちゃんすごく話しやすいから俺ばかりが喋っちゃってて。次は○○ちゃんのこと教えてよ。」

など。これは実際に私が男性から言われた言葉です。

皆さんも男性からこの一言を言わせるために、モテる女性の全てが出来ている聞き上手をぜひ目指してみ

てください。男性との関係性が驚くほどに変わりますよ。

ここでまとめ。

- ・相手に興味を持つ
- ・相手に話をさせる
- ・必ず質問をする
- ・一連の流れを大切にする

この4点で最強の聞き上手になれます。ぜひ実践してみてください。

「交際相手と結婚相手の決定的な違い」

「Ayaさんっていわゆるプロ妻ですよね？」

この言葉は実際に私の話を聞いた婚活女性に言われたものです。

結論から言いますと、高収入男性と結婚して専業主婦になりたいのであれば家事スキル（特に料理）は必須項目です。

これは高収入男性と交際するだけでいいのであれば必要ありません。「結婚」して「専業主婦」になりたいのであれば必要不可欠になります。

なぜなら家事スキル（特に料理）が一番結婚をイメージしやすいものだからです。

ここでひとつ話をさせて下さい。

大手金融に勤める男性（三十五歳）が7歳年上の女性（バツ2、大学生の息子あり）とスピード婚をしました。ですが、実は彼には大学生から交際していた同い年の女性がいて、周囲も当然その女性と結婚するものだと思っていました。

そんな彼女の唯一のネックは料理が全くできないこと。しかも「学ぼう」という姿勢もなく、彼と二人で美味しいレストランデートをするのが当たり前になっていました。

一方、年上の女性の方は料理が大の得意。子育て経験のある彼女にとって料理をするのはごく当たり前の事。彼は彼女の心のこもった手料理でもてなされ大感激。彼は年上の彼女との生活に居心地の良さを覚え、長い付き合いだった恋人に別れを告げついに結婚を決めました。

この話からすでに分かるかと思いますが、男性は結婚というと疲れて自宅に帰ってきたときに家で温かい料理が待っていて「おかえり」と出迎えてくれる……。というような癒しをイメージします。

いつも外食ばかりで派手な生活をしていると、家庭的なイメージが持てず「付き合うのはよくても、結婚は違う」と別にされてしまいます。

今のご時世、共働きが普通で家事も分担してよく聞きますが、高収入男性と結婚して専業主婦になりたいのであれば話は別です。私のまわりにいる旦那さんが年収1500万円以上の妻の全員が、まわりからみたらプロ妻に見えると思います。料理は出来て当たり前、また一品料理ではなくバランスの良い食事。掃除や洗濯、育児もごく当たり前前にやっている。

たまにお金持ちと結婚したら「俺がいない間、好きにしていっていいよ」とクレジットカードを渡され生活できる、と勘違いしている方もいますがそれはごくごく一部の石油王とかの話です。また、家事しなくていいレベル（家事代行に頼る）は、お互いが経営者で自分も相当稼いでいる（自分のお金が相当ある社長令嬢）な場合だけです。

あなたがそこを目指していないのであれば、言い訳せずに家事全般、特に料理はできるようにしましょう。



## 一番重要な「マインド」について

みなさんは「失敗を恐れずにちゃんと行動」ができていますか？

結婚できる人とできない人の大きな違いは「積極性」つまり自分からちゃんと行動できているか、いないかだと私は思います。人は大人になると失敗するのが怖くて一歩踏み出せない人が多いと思います。

「振られるのが怖いから、自分からは告白しない」

「断られるのが怖いから、自分からはデートに誘わない」

「結婚する気があるのか彼に聞きたいけど、聞いてしまったとしてもしものことがあったら怖いから聞けない」など、本当に結婚する気があるのか？ と思いたくなるくらい消極的な人が多い気がします。

もちろん、その中の一人に私もいました。過去に都合の良い女をやっていた時、本当は彼に

・私達って付き合っているんだよね？

・○○くんって、私と結婚したいって思っていたりする？

・再婚とかって考えられるの？ そもそも結婚願望ってある？

と聞きたかったのですが一切聞くことができませんでした。なぜなら、それを聞いてしまったがゆえに、彼からウザがられて嫌われたくなかったからです。

このような常に男性に対して下手で、男性に聞きたいことも聞けない、言いたいことも言えないような私  
が、夫の時はまさかの自分から同棲の話を持ち出し、来年結婚しない？ と自らプロポーズをすることが

できました。

なぜそんなことができたのか・・・？

それは留学先で出会ったある外国人の一言を聞いたからです。

過去の私は人の顔色を伺い、常に人に合わせるタイプの人間でした。

そんな自分の性格がととても嫌で。そんな時、たまたま見ていた洋画で外国人の常にポジティブな考え方、自分の意見をはっきり言える芯の強さに憧れ「私もこうになりたい・・・」と思ったのも、留学を決意したひとつの理由でした。

ですが、向こうへ行ったただけだとなかなかそうはなれなくて……。常に優柔不断で友達の意見に合わせていた私を見て、ひとりの友人がこう言いました。

「Aya、今日という特別な日は1度しかないんだよ？ Ayaのその選択、本当に後悔しない？ しないのであればいいけど後悔する可能性が1%でもあるなら、後悔しない選択をしないとね。別に死ぬわけじゃないんだからやりたいことやって、いいたいこと言った方が人生楽しいよ！」

当時の私にはこの言葉がめっちゃめっちゃ響きました。素直に今日の自分の行動、選択に後悔したくない。そう思いました。

それ以降の私は

- ・好きな人には、好きと後悔しないように言葉で伝えるように
- ・自分に逃げないで、嫌なことはイヤと伝えるように
- ・行きたい店があれば「どっちでもいい」なんて言わずに「ここに行きたい」と伝えるように
- ・婚活中にこの人だ！と思う人がいたら自分から連絡先を聞いたり、デートに誘ったりするように

常に『明日死んでも後悔しないか』で物事を考えるようにしました。

婚活が上手くいっていない方のほとんどが、本やブログなどで婚活がうまくいくための方法について情報収集をするかと思いますが、そのほとんどが情報収集するだけで終わってしまい、実践できていない方がほとんどだと思います。ですがよくよく考えて頂きたいのですが、

結婚なんて一人としかできないんだから、例え九十九人に振られても、たった1人に愛されていたらそれだけでパツピーじゃん。

物事をこのようにポジティブに捉えることさえできれば、必然的に失敗を恐れず自分から積極的に行動ができ、結婚することができるようはずです。

今一度、自分はちゃんと婚活ができているか、積極的に行動が出来ているのか考えてみてください。

何度も言いますが高収入男性は基本的に結婚にメリットを感じていない、結婚願望が薄い人がほとんどです。

お金さえあれば家事なんて家事代行で済みますし、もし交際相手との間に子供が出来たら、わざわざ結婚しなくても、認知をし養育費を払う事だってできます。複雑な手順を踏み、籍を入れるメリットは彼らにはそんなにあります。結婚にメリットがあるのなんて基本女性だけですから。

そんな男性からのアクションをいつまでも、いつまでも待っているようだと、あなたの理想のタイミングで結婚することはほぼ不可能でしょう。幸せを掴むことができる女性というのは、必ず自分からアクションを起こせる人です。

あなたも一歩、踏み出してみませんか？

出会いにお金をかけるな、9割の人が陥る「ハイクラス結婚相談所の闇」

最後に、過去の私含みみなさんが一番気になる問題「お金持ちとどこで出会うの？」についてお話していきます。

私は今まで高収入男性狙いの婚活女性、百人以上の方の相談に乗ってきました。ある時私は、婚活が上手くいっていない方のある共通点を見つけました。

それは、**出会いに大金をかけて婚活をしている**ことです。

というもの、私含め私のまわりの年収1000万円以上の高収入男性と結婚した女性（80名以上）の全



てが出会いにお金をかけずに高収入男性と結婚しているからです。

賢い女性は今の時代「無料」で高収入男性と出会える分、自分の身になることにお金を使います。(マナー講座や料理教室などの教養)

反対に、婚活が上手くいっていない女性は出会いに大金をかけてしまい、ハイクラス結婚相談所に入会します。そして「これで私も玉の輿に乗れる！」と期待をしますが、実際は理想とする高収入男性とは出会えず、むしろカウンセラーさんに「男性の年収を下げるのはどうでしょうか？ 男性の年齢をあげるのはどうでしょうか？」と謎に妥協を強いられ、結果お金だけなくなり結婚できずに終わります。

大手の結婚相談所が、膨大なお金をかけ婚活市場に広告を打つので「ハイクラス男性に出会える結婚相談

所 エグゼクティブコース」や「年収1000万円以上の男性限定 婚活パーティー」とかが目に入り、  
ついついつられてしまいますが、今一度よく考えてみてください。

「ハイクラス、高収入」がつく結婚相談所や婚活パーティーなんかは、なぜか女性の方が会費が高かったりしますが、そんな明らかな「お金目的」の女性、まともな高収入男性が相手にすると思いますか？

つまり何が言いたいかというと、まともな高収入男性は結婚相談所にはいませんし、そんなところにいる女性の事を相手にしません。

年収が高いというだけで女性からめっちゃめっちゃ食いつかれモテるのに、彼らがわざわざ高いお金を払って出会いを探すわけがないじゃないですか。きつい言い方をしますが、ちょっと考えればわかるはずですよ。

結婚相談所のセールストークとして「彼らは仕事が忙しく、結婚したいが出会いも時間もないためうちを利用している」とよく聞きますが、そのような多忙そうな業種の方、医者、弁護士、税理士、会計士、経営者など今の時代普通にマッチングアプリにいます。アプリで女性とやりとりする時間くらいとれますからね。また、男性からすると、そっちの方がとても気軽に、リーズナブルな金額で気になる女性と出会えますから使わない手はないですよ。

正直なところ、結婚相談所を利用している男性は、今のこの時代に、SNSでの出会いを利用できないような、人を挟まないと一対一で女性と会うことが出来ないような、コミニユンの方や、親が手続きをした、普段モテていない相当わかっている人がほとんどだと思います。（実際に入会していたお客様から聞いた話をまとめると）

そもそもなのですが、みなさんは結婚相談所の「結婚確率」が劇的に低い事をご存じでしょうか？成婚率ではないです、結婚確率です。

それは、たったの2%です。

無料で出会えるアプリなどのSNSの方が確立が高く**13%**で、なんと結婚相談所の6倍以上です。(20

22年 秋 News every でやっていた最新情報の数字)

私がこの事実を知った時「やっぱり世の中の情報って本当嘘っぱちだな」ととても残念な気持ちになったのを覚えています。

ではどこで、まともな高収入男性と出会えるのか？それは

・マッチングアプリ

・相席屋のVIPルーム（ちなみに私は夫とここで出会いました。私の講座受講生様もここで出会い結婚の方もいます。）

が無料で出会える媒体です。ちなみに自然な出会い（趣味など）を求めたい方は、

・英会話教室

↓仕事で英語を使う方、これから仕事で英語を使っていきたい方、海外移住を考えている経営者、海外旅行が趣味な高収入男性と出会えます。自分もスキルアップをした上で出会いがあるのでお勧めです。ちな

みに私が英会話に通っていた時、えげつないお金持ち（毎月海外旅行）がゴロゴロいて、仲良くなった人とLINDA交換し、飲みにいきました。また、私の知り合いは英会話教室で出会った外資系勤務の方と結婚しています。）

・お金持ちエリアにある会員制のフィットネス

↓説明不要だと思いますが男女問わずお金持ちしかいません。また、お金持ちは少し世間の感覚とずれていたりするので、こっちから気軽に話しかけたら時間にも心にも余裕がある方たちなので普通に話をしてくれます。（指輪はチェックしてから話しかけましょう。）また、環境的にも意識高くなるので、お金に余裕があればおすすすめです。

・ゴルフ

↓こちらにも説明不要だと思えますが、お金持ちのスポーツです。経営者や高収入男性のほとんどがやっていますね。過去に私がマッチングアプリの趣味の欄にゴルフを入力していたとき、同じく趣味がゴルフの医者や経営者が食いつき「今度打ちっぱなし行きましょう！」とすんなり、デートが約束されました。冒頭でもいいましたが、「同じ・一緒」という感覚は最強です。

ぜひ、これらの情報をあなたの婚活で生かしてくださいね。

私が運営する戦略的婚活塾の受講生様が驚く結果を次々に出した件。

私は今、育児の傍ら高収入男性狙いの婚活女性のサポートをしています。

そんな私がサポートさせて頂いた講座受講生さま達が驚きの結果を出しているので、みなさんに一部ご紹介させて頂きます。





あやさん😊  
お久しぶりです🌟  
お元気でしたか？

以前にご相談させて頂いた年下の彼の件ですが、実は先日プロポーズされ再婚する事になりました😊🌟

あやさんには色々な相談にのって頂き、感謝の気持ちでいっぱいです🌟🌟



二十代後半、バツイチ子持ち（子供4歳）の女性が書籍にある内容を実践した結果、相席屋で年収250万円の年下経営者と出会い、出会った翌月には半同棲、その1年後に再婚しました。

現在彼女は、代々木のタワーマンションに住み専業主婦をしています。そんな彼女から「一度失敗した私なんか再婚で念願の専業主婦になることができ、子供と過ごす時間が増えて今、本当に幸せです！」との嬉しいお言葉を頂きました。

婚活歴6年「私もう結婚できないかも・・・」と言っていた30代前半の婚活女性が、年下経営者（シー  
シャ2店舗、不動産経営）とマッチングアプリで出会い2ヶ月後に交際＆お互いの両親に挨拶済み、その  
2か月後には新宿の彼のタワーマンションで同棲。年内結婚予定。そんな彼女が言っていた言葉は「男性  
任せにしないで、やっぱり自分から動いていかないと何にも進まないことを身をもって学びました。」

※受講生様と Marriottホテルのアフタヌーンティーに来た時の写真



婚活を遅めにスタートしてしまい、本気で結婚を諦めかけていた40代前半の婚活女性が、今までの婚活方法からがらっと変えると、マッチングアプリで東京白金住みの年上金融マンと出会い、週1、2回のデートを重ね、出会った翌月には結婚前提の激アツ真剣交際に発展。

そんな彼女が言っていた言葉は「私はAyaさんが言っていた「結婚なんて一人としかできないんだから、例え九十九人に振られても、たった1人に愛されていたらそれだけでパッピーじゃん。」この言葉が自分の中でとても響きました。今までどうしても一歩踏み出せない自分がいて……。今回の結果はそこを突破し、自ら行動を起こせた結果だと思います。ここで油断せず、彼との入籍を目指して気を緩めないで頑張ります。」

以上です。みなさんも是非彼女達に続き、幸せを掴んでくださいね。

エピソード

「人は、本気で変わろうと思えば1秒で変わる」

私はここ数年で、この言葉を何度もつぶやいた。

北海道の下田舎にいた世間知らずの芋女が、ツテもコネもない札幌に飛び込み、次に言語が通じないカナダへ飛び込み、気が付いたら東京の高級タワーマンションで専業主婦をしていた。

きっかけは決して良いものではなかった。でも「本気で変わりたい」そんな思いは常にあった。

私自身が変わったら、まわりも不思議と変わった。

友好関係が、意識の高い人達しかいなくなった。

ママ友のほとんどが、旦那さんが経営者の方だ。

あれだけ仲が悪かった母とも普通に話せるようになった。

むしろ、私を変えるきっかけをくれてありがとう、と感謝までできるようになった。

自分のことをとても大切に、愛してくれる旦那に出会えた。

最愛の子供まで授かれた。

そして毎日が本当に幸せな日々を送れている。

あんなに苦しく長い婚活が嘘だったかのような、人生が180度変わった世界。正直幸せすぎて時々不安になるくらい。だからこそ私は、過去の私のように今、終わりの見えない辛い婚活をしている女性に、変わるきっかけをプレゼントしたい。

どんな女性も、どんな人生を送ってきた女性も、絶対に変われる。変わらない人なんていないから。

ここまで読んでいただいたあなたは、もう扉の前まで来ている。あと必要なのは、ほんの1ミリの勇気だけ。

その小さな勇気で、扉を開けてみてほしい。信じて開いてみてほしい。昨日までの延長戦ではない。あなただけのまぶしく輝く人生に繋がる道が拓けているから。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

## 著者情報

婚活アドバイザー Aya

メディア

Twitter : [https://twitter.com/aya\\_eiyoushi](https://twitter.com/aya_eiyoushi)

運営ブログ : <http://healthylifeaya.com/>

アメブロ : <https://ameblo.jp/aya-konkatsu>

当書籍の内容、テキスト、画像等の無断転載、無断使用を固く禁じます。また、内容に対しての効果は個人差があり、効果を保証するものではありません。